突撃インタビュー

編集部ハルちゃんが行く！

ハルちゃんって誰？

師走にひいた大風邪で減ったはずの体重を、新年会ラッシュであっという間に取り戻した本誌の編集担当者。今月半ば、所属しているアマチュアオーケストラでワーグナーの「さまよえるオランダ人」と「ウェーゼンドンク歌曲集」ほかを演奏いたします。実は今回お話を伺った㈱ユタカの二神社長は音楽にも造詣が深く、ワグネリアンでもあるとのこと！ああ、東京と松山がもっと近かったら、拙い演奏ではありますが聴きにきていただきたかったなあ。

今回お伺いしたのは、精密加工部品や金型等を手がける㈱ユタカ。これだけ聞くと普通ですが、社長が自宅の電話1本で始めた会社が今や、NASAの宇宙ステーション向け部品まで造っているのです！その進化の秘密、教えてください！

第71回目　株式会社　ユタカ

株式会社ユタカ

(本社・工場)
〒791-8044　松山市西垣生町882番地2
TEL (089)971-5501 (代表)　FAX (089)973-9092
http://www.kk-yutaka.co.jp

お話を伺った方

代表取締役
二神　久三　氏

営業部　部長
浅川　史朗　氏

□■今回のお題：半導体製造装置■□

電話1台からの起業

ハル：よろしくお願いします。御社は精密加工部品や金型製作を主力に世界水準の高い加工技術を誇られていますが、もともとは二神社長がご自宅で、お一人で起業したそうですね。社長一代でここまで会社を成長させてこられた背景について、教えていただけますか?

二神：私は東京の大学を中退後、職を転々といたしまして、1977年にプラスチックやゴムホースなどを扱う商社を立ち上げました。私が32歳のときです。商社といっても、自宅に机と電話を置いただけ。もちろん従業員もいません。家族も養わなければならないし、ひとりで駆けずり回っていましたよ。

ハル：背水の陣だったのですね。うう、私にはとても無理だ…。

二神：そんななか、松下寿電子工業（現・パナソニックヘルスケア）から、家庭用ビデオデッキの製造装置に使う部品の発注を受けたのです。要望に沿える工場を探し歩いて納品したところ、高品質・低価格であることが評価され、信頼を得ることができました。当時は家庭用ビデオデッキが出始めたころで、わが社への受注もどんどん増えていきました。当時、家庭用ビデオデッキは四国を中心につくられていたので、そういった地の利もあったでしょうね。

ハル：時流に乗られたわけですね! そこから先はとんとん拍子に…。

二神：そう簡単にはいきませんでしたよ(笑)。オイルショックや円高の影響もあり、企業は早急に合理化を推し進めている時代でした。納期もどんどん短縮され、厳しい条件を突きつけられることも多かったですね。取引先に朝行くと「今日の夕方にパーツがほしい」、夕方行くと「明日の朝にほしい」なんて言われることもしょっちゅうでした。

ハル：それはまた無茶な! そんな要望に応えていったんですか!?

二神：ええ、他社ではできない仕事、嫌がる仕事を引き受けることが、唯一生き残る道だったのです。無理な要望に挑戦しつづけてきたなかではもちろん失敗もしましたが、そこで諦めなかったことが今につながっているのだと思いますね。

ハル：何でもすぐ諦めちゃう私としては、猛省を促される姿勢だなあ…。

メーカーとしての歩み

ハル：商社としてスタートした御社がメーカーとして歩みだしたのは、いつごろからだったのですか?

二神：創業してから4年目の'81年、フライス盤を1台購入したのがはじまりです。といっても社員は元レントゲン技師や農機具の修理を手がけていた人など、私も含め素人集団。社員たちには職業訓練所などで技術を習得してもらいました。社屋もプレパブで、蚊はブンブン飛んでるし、屋根の隙間からは月が見えるし(笑)。

ハル：24時間空調管理、10台以上の5軸加工機をはじめ最新の加工機を数多く有する今の御社からは想像もつかないですね!

二神：工場に空調を備え、新たに設備導入したのは'85年のことですね。当時は汎用機がメインで、ビデオデッキの無人組立機のための部品をつくっていましたが、だんだんと取引先の業種や加工分野が拡大されていきました。他社が断る無理な要望も引き受けることで、新たなビジネスチャンスを広げていったのです。

ハル：みんながやりたがらないということは、そこに何かしらのリスクが

㈱ユタカの飛躍の転機となった家庭用ビデオデッキ。社内には、今も現物が大切に保管されています。ダイヤル式のガチャガチャチャンネル、なつかしい！「送」「戻」「再」「録」「停」と書かれた操作ボタンにも時代を感じます。今では家庭にあるのが当たり前になったデッキも、当時は憧れの対象だったのだろうなあ。

あるからですよね。それを乗り越えてきた過程が、今の御社の高い技術の基礎になっているということですね。

食品から宇宙科学まで

ハル：ところで現在では、主にどのような分野を手がけていらっしゃるのですか?

浅川：半導体製造装置がメインですね。わが社の製品が関わっている分野としては、自動車、食品、電気・電子、医療、航空機、宇宙科学…

ハル：わあっストップストップ、いっぱいあって書ききれません！ いやはや、ほんとに幅広いですね。御社が多くの最新設備を充実させているのも、これらの分野に活かすための投資なのでしょうか。

浅川：そうですね。普段から複合旋盤や5軸加工機を駆使しています。3次元測定器を6台持っているのも中小企業では珍しいでしょうね。24時間空調管理のため電気代はかかるし、CAMソフトも高価である等、リスクが高いですし。

ハル：そうか、機械さえ買えばOKという単純な話ではないのですね。

二神：使いこなせるようになるまで、10年はかかりましたね。慣れるまでは社員たちもぼんぼんぶつけるし(笑)。

ハル：いや社長、1億円以上する機械もあるわけですし、笑いごとではない気が…(汗)。

二神：でも、取引先が持っているソフトと同様でないとプログラムが見られませんし、こちらから新たな提案をすることもできません。それに、失敗を通してさまざまな経験を学んできた社員たちが、今のわが社を支えてくれているのです。いくらすばらしい機械があっても、それを活かすのは人です。良い製品をつくりたいという思いが宿ったときに、初めて本当に役に立つ製品が生まれると信じています。

ハル：御社の社名には「経営も、発想も、心も、暮らしも豊かに」という願いが込められているそうですが、二神社長のお話を伺っていると、社長のお人柄からその社風がにじみ出てくるようですね。

地方であることのメリット

ハル：御社が幅広い分野を手がけているのには、なにか狙いがあるのでしょうか。

浅川：もちろんユーザーからの受注で広がっていることもありますが、リスク分散もありますね。業界だけでなく、地域も幅広く手がけています。航空機業界は慣れるまで15年くらいかかりましたし、業界ごとにさまざまなルールがあるので大変な面もありますが、大手企業とちがってわが社はいわば「何でも屋」、リスクがあったりイレギュラーな要望にもスピーディに対応する姿勢で、ここまで成長してきたのです。

ハル：なるほど、「困ったらユタカに相談しろ！」という駆け込み寺的存在でもあるんですね。

浅川：最近は難削材で、しかも材料名称を教えてくれず「加工して」という要望も多いので大変ですよ(笑)。

ハル：でもNASAの宇宙ステーション向けの製品まで手がける会社が、この自然豊かでおっとりした土地柄の松山でつくられているとは思ってもいませんでした。今後、都心部に進出するお気持ちはないのですか?

二神：地方に拠点を置くことは、デメリットばかりではないのですよ。わが社は大量生産ではなく、優れた受注製品を多品種少量生産していますので、広い敷地を確保できる地方はかえってメリットです。そのぶん機械設備にとことん投資できますから。加えてわが社の製品は小型のものが多いですから、輸送費もコストダウンできますしね。

ハル：実は私も今回松山に来て、この地がすっかり気に入ってしまったんです。こんな場所で暮らしながら最先端の技術に従事できたら幸せだろうなあ。

二神：光学系や医療関係への強化、ニーズが高まっている軽量化・高速化へのスピーディな対応など課題はいろいろとありますが、これからもこの松山の地から、世界をリードする製品づくりをしていきたいですね。

取材のあとのお楽しみ♪

松山にはおいしいものがいっぱいあって、欲張って片っぱしから食べてきちゃったのでここでは書ききれず(汗)。ということで、取材前夜に松山入りしてお邪魔した某老舗バーについて♪ 飲み仲間たちから「松山のバーを語る上で外せない名店」「このバーに来たいがために松山出張する」と聞かされていたこのお店、昭和のノスタルジーを満喫できる静かで懐かしい佇まいにマスターご夫妻のあたたかいお人柄がとけこんで、本当に素敵なお店でした。あまりに気に入って、取材日の夜にも行ってしまい。ああ、また行きたいなあ。

こんなモノ ★見つけました★

休憩時間にビリヤード!?

社員食堂の隣の部屋に行ってみると、なんとビリヤード台や卓球台が！「よく働き、よく遊べ」という二神社長のモットーを具現化した施設で、休憩時間やアフターファイブには、誰もが気軽に利用できるんです。また、社員さんたちが楽しみにしている社員旅行はハワイやグアムなど、海外を中心に毎年実施しているそう。ううっ、うらやましい！